

秋に植える球根について

秋植球根と言いますとチューリップ、ヒヤシンス、クロッカス、水仙等、既に皆様方にはおなじみの種類が多いです。そのうちでも最近次々と色々な種類が紹介されて来ましたので、そのいくつかについてご説明いたします。

1) チューリップ

チューリップには色々種類がありますが、最近、野生種、原種といわれるスピーンス系のうちフォステリアナ種、グレイギー種等は、早咲で草丈は低く変わった花型で、春早くの花壇用として最近特に注目されて来ました。色彩も色々であり、赤のレッドエンペラー、白のプリシマ、黄色のキャンテラ等はよく植えられております。花壇植ばかりではなく、鉢植としても好適です。

2) アリアム

よく生花で使用されています葱の仲間です。色々品種がありますが、最近特に目立って植えられておりますのは、ギガンチュームです。この種類は中央アジアの原産で、草丈も高く1m位になり、花は直径20cm位で最大です。美しい鮮桃藤色で、札幌では7月初め頃に咲きます。球根も大きく価格も他の品種に比べ高いですが、是非一球とおすすめいたします。またこの仲間には、小球で赤味を帯びた紫色の丹頂や、草丈低く、中央から花茎を出し、10数輪の黄色の花をつけるモーリー等は、花壇用としても最近使われるようになって来ました。

3) シラー

余り北海道では植えられていませんでしたが、ここ数年来、植えられるようになって来ました。ヨーロッパ原産の耐寒性の強い百合科の花で、一名ツリガネスイセンとも呼ばれております。一般に次の2種が多く使われています。スペイン原産で2~3本の花茎を出し、1.5cm位下垂した鐘状花を10数輪つけるカンパニユラター、色は紫、桃、白とあります。またシラーの中でも独特な傘状に紫色の小花を着花させるベルビアナが一般に植えられています。

4) ムスカリ

中部ヨーロッパの原産で耐寒性強く、非常に作りやすい草丈の低い丈夫な花です。花は濃紫色でブドウ状に咲きます。

次に秋咲きの花を紹介します。

これから説明いたします球根は、9月~10月にかけて開花し、その後明春葉が出て生育し、夏にかけて地上部枯れ、その後再び花芽が伸長して花が咲きます。

1) コルチカム

別名イヌサフラン、ヨーロッパ、北アフリカの原産で机の上等において放置しておきますと、花茎が伸び9月初めに桃紫色の美しい花が咲きます。花が終りましたらよく肥えた土に植込んでおくと翌春、オモトによく似た葉を出し生育いたします。葉が枯れましたら掘り上げてよし、そのままにしてもよく、秋に花が咲きます。

2) リコリス

日本、中国の原産でヒガンバナの仲間で、8月末に植えますと、その秋に開花いたします。花が終りましたらそのまま越冬させますとコルチカム同様葉が出て来ます。

3) ステルンベギア

ひがんばん科の仲間で、秋9月末から10月にかけてクロッカスによく似た黄色の美しい花が咲きます。4~5寸鉢に2~3球植えてもよろしいです。咲き終りましたらそのまま土中に越冬させて下さい。

4) サフラン

アヤメ科の花で、春早く咲くクロッカスの仲間です。クロッカスと一般に言われているのは春咲です。秋咲きのクロッカスは、サフランと呼ばれております。花は紫色で、他に花の無い時期ですので、ステルンベギアと共に非常に目立ちます。鉢植等でも立派な美しい花が咲きます。

以上の外にも色々ありますが、北海道を中心にした花を上げてみました。

秋植球根類の特性としては、花芽の分化は秋のうち一定の低温に感応して行われます。また根も秋のうちに発根し、積雪下でも十分に発育しております。よく水栽培で失敗される方は、最初より暖かい場所に置いた方に多いです。また春、花が咲いてから球根を探される方も見かけます。チューリップ、クロッカス、水仙、百合、アイリス等の秋植球根は、是非秋おそくとも10月末までには植えて下さい。